

令和6年度
事業報告書

ともに生きる
豊かな地域社会

社会福祉法人
新居浜市社会福祉協議会

目	次
概要	・ ・ ・ ・ ・ 1
重点目標結果	・ ・ ・ ・ ・ 3
1 地域福祉の推進	
(1) 小地域福祉活動事業	・ ・ ・ ・ ・ 4
(2) 企画・広報事業	・ ・ ・ ・ ・ 5
(3) 共同募金運営事業	
(4) 民生児童委員協議会連携推進事業	
(5) 福祉施設協議会運営事業	
(6) 地域福祉バス運行事業	・ ・ ・ ・ ・ 6
(7) 地域福祉バス運行事業（別子校区）	
(8) 福祉用具貸与事業	
(9) 日本赤十字社愛媛県支部新居浜市地区運営事業	
(10) 会員制度啓発推進事業	・ ・ ・ ・ ・ 7
(11) まごころ銀行の運営	
(12) 総合福祉センター（本館）管理運営事業	
(13) 総合福祉センター（別子山分館）管理運営事業	・ ・ ・ ・ ・ 8
(14) 地域包括支援センター協力機関業務	
(15) 生き生きデイサービス事業（別子校区）	
2 児童福祉の推進	
(1) 児童館運営事業	・ ・ ・ ・ ・ 9
(2) 児童健全育成事業	・ ・ ・ ・ ・ 10
3 障がい者福祉の推進	
(1) 障がい者福祉センター運営事業	・ ・ ・ ・ ・ 12
(2) 障がい者サロン事業	
(3) 障がい者在宅福祉対策事業	
(4) 地域福祉活動支援センターⅢ型「いぶき」運営事業	・ ・ ・ ・ 13
(5) 生活介護事業	
(6) 児童発達支援事業はげみ園	・ ・ ・ ・ ・ 14
(7) 障がい者居宅介護等事業	
(8) 障がい者等移動支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 15
(9) 相談支援事業	
4 高齢者福祉の推進	
(1) 独居高齢者見守り推進事業	・ ・ ・ ・ ・ 16
(2) 高齢者福祉センター運営事業	
(3) 居宅介護支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 18
(4) 訪問介護事業	
(5) 認知症対応型通所介護事業	・ ・ ・ ・ ・ 19
(6) 訪問介護事業所職員連絡会運営事業	
5 権利擁護の推進	
(1) くらしの総合相談・支援事業	・ ・ ・ ・ ・ 20
(2) 生活福祉資金貸付事業	
(3) 福祉サービス利用援助事業	
(4) 法人後見事業	・ ・ ・ ・ ・ 21
(5) 生活困窮者自立支援事業	
(6) 緊急食料等支援事業	
(7) 新居浜を明るくする運動推進事業	
6 ボランティア活動の推進	
(1) 福祉ボランティア推進事業	・ ・ ・ ・ ・ 22
(2) 福祉教育、生涯福祉学習	・ ・ ・ ・ ・ 23
(3) 災害ボランティアセンター設置運営事業	・ ・ ・ ・ ・ 24
7 社会福祉協議会の運営の強化	
(1) 理事会・評議員会の運営	・ ・ ・ ・ ・ 25
(2) 財務運営、管理	
(3) 人事管理・人財育成	
(4) 労務管理	
(5) 社協発展・強化、その他計画の策定と進行管理	
(6) 広報活動・広報戦略	

令和6年度 新居浜市社会福祉協議会 事業報告

概要

少子高齢化、人口減少社会の進展に伴い、地域社会においては、人と人とのつながりの希薄化が顕著となり、地域課題の複雑化やニーズの多様化、また、人口減少による福祉を支えるマンパワー不足など社会環境が変化しています。

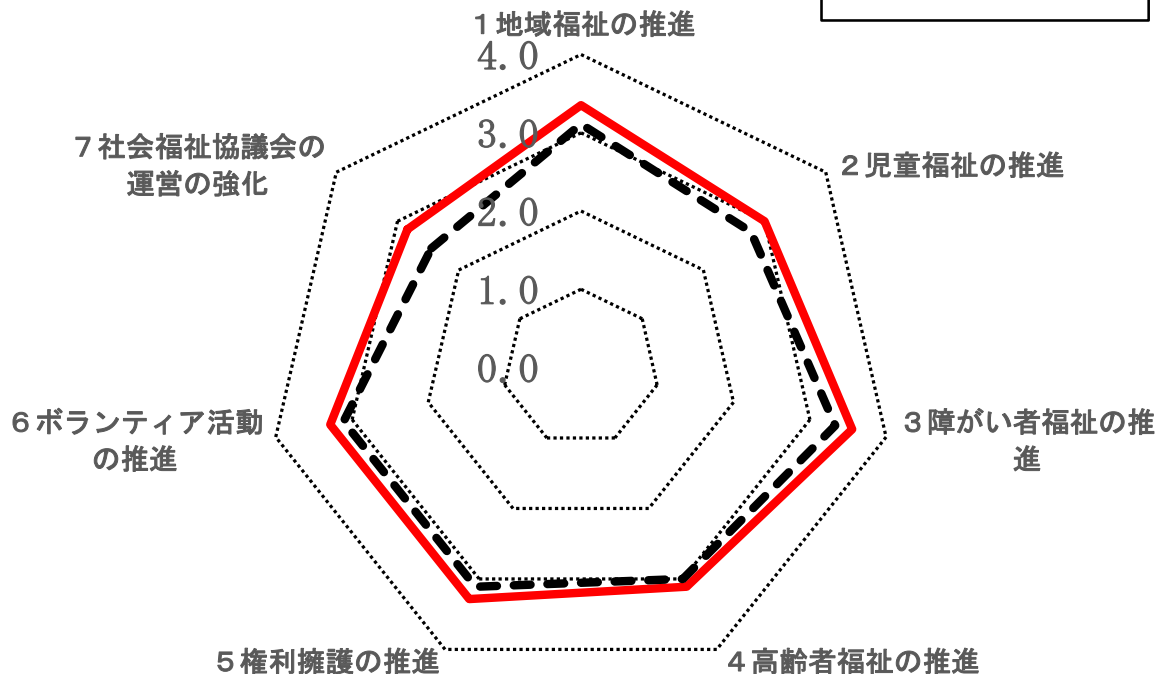
このような状況のなか、地域福祉の推進主体である新居浜市社会福祉協議会は、地域の生活課題を組織一丸となって受け止め、顔の見える関係を大切にし、相談・支援体制の強化を行い、新居浜市や民生児童委員をはじめとする地域の様々な関係機関・団体と連携を図り、地域生活課題の解決のための活動を行うとともに、だれをも排除しない地域社会づくりに取り組みました。

住民一人ひとりが、日々ともに支え合い、生活における楽しみや生きがいを見出し、生活上のさまざまな困難を抱えた場合でも、社会から孤立せず、安心して、その人らしい生活を送ることができる「ともに生きる豊かな地域社会」の実現に向け、最高の笑顔をすべての人に届けられるよう活動を展開しました。

事業実施目標 評価

— 自己評価 — 全体評価

4：できた又は終了
3：概ねできている
2：半分できている
1：半分以下





つながりワーナー養成研修 地域福祉課

地域での孤立に気づき、つながり、つなげ、見守る人材を養成する研修を開催しました。



日赤による子どもの事故対処法 児童施設課

子育て中の保護者を対象に日本赤十字社愛媛県支部より講師を招き事故対処法を学びました。



交流会 障がい者施設課

他市の障がい者団体の視察を兼ねた交流会に参加しました。今後のより良い団体支援につなげるための意見交換ができました。



出張サロン 高齢者施設課

地域のサロンに出向いてレクリエーションや健康体操を提供しました。



なかよくボールあそび 児童発達支援課

小集団活動の中で、他者との関わり方や社会性などの発達を促しました。



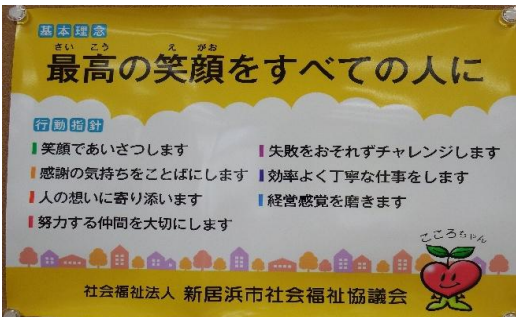
BCP訓練・研修 介護事業課

職員の一般的な防災の意識を高め、災害及び感染症のBCP計画においての自分の役割や初動対応を理解し、行動できるよう訓練・研修を実施しました。



支援調整会議 権利擁護課

関係機関との連携を図り、生活困窮者や障がい者(児)の権利擁護を推進しました。



基本理念策定 総務企画課

新居浜市社会福祉協議会の「基本理念」「基本方針」「行動指針」を策定しました。

重点目標結果

1 地域福祉の推進

各種機関・団体との情報共有を通じて地域福祉の向上に取り組みました。地域包括支援センター及び社協内との連携を強化し、個別支援のケースに対して効果的に支援しました。また、定期的な会議を通じて、各機関との協力関係を深化させ、迅速かつ包括的に支援しました。

2 児童福祉の推進

様々なあそびを通して自ら遊ぶ力を身につけ、個性や協調性を伸ばせるように状況に応じたあそびを提供しました。また、高学年の利用に対し居場所と感じてもらえるようコミュニケーションを取り継続した利用につながりました。子育て中の保護者が利用しやすい環境をさらに整えるとともに、子育てに必要な情報発信を行いました。

3 障がい者福祉の推進

【障がい者施設課】
障がい者団体の定例会や行事に参加するとともに、要望のあった活動支援を行いました。また、チラシを活用し団体の活動状況などの情報発信や地域住民との交流会を実施し、顔の見える関係づくりを行いました。

【児童発達支援課】
利用児が安心して通所できるよう、一人ひとりに合わせた支援を行いました。保護者と支援方針について話し合うことで、目標に向けた支援内容を具体的に提示し、支援することができました。

【介護事業課】
住み慣れた地域で過ごしたいと希望されている方のニーズや状況に対応できるよう職員の知識・技術の向上を図るための研修、関係機関との連携をとり、利用者の希望する在宅生活を支援するための計画やサービス提供を行いました。

4 高齢者福祉の推進

【高齢者施設課】
高齢者福祉センターでは、住み慣れた地域での生活支援の拠点として、高齢者がいつでも気軽に安心して利用でき、健康の保持や生きがいづくりにつながるように、魅力的な行事を企画・実施しました。また、日常のコミュニケーションを通じた利用者の変化への気づきにより、不安の解消や他機関との連携による支援を行い、利用者の安心安全な生活につなげました。

【介護事業課】
他課や関係機関との連携を図り、高齢者が自分らしく在宅で生活するための生活支援を進めることができました。また、職員の研修については、内部研修や知識をさらに深める専門性の高い研修への参加により、職員のスキルアップが図られ、利用者の支援に活かすことができました。

5 権利擁護の推進

相談者の想いを大切にしながら、丁寧な支援を心がけ、必要な支援を必要な方へ提供することができました。困難な対応ケースにも、チーム支援で専門性をもって日々研鑽に努め、社協内部や関係機関と連携しながら継続的かつ包括的な支援を粘り強く行いました。

6 ボランティア活動の推進

ホームページ、SNSを活用した情報提供を通じ、ボランティア活動の活性化を図りました。ボランティア募集情報や活動報告を広く発信することで、多くの地域住民がボランティア活動に参加し、地域全体の福祉力向上につながりました。

中学・高校生を対象に初めて実施した夏のボランティア体験では、多くの福祉施設の協力を得ました。施設と連携した取組により、地域の福祉ネットワークが一層強化されました。

7 社会福祉協議会の運営の強化

経営安定を目指し、法人全体での経営改善に向けて、研修を行いました。法人の基本理念を策定し、職員の意識向上を図りました。

実施項目

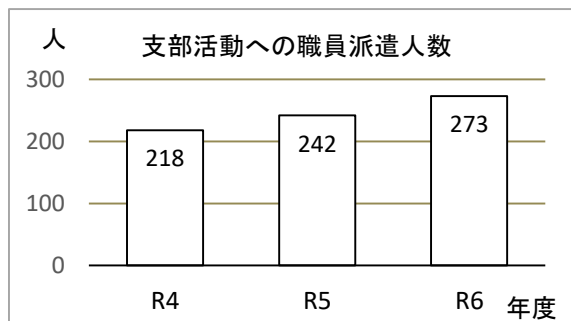
1 地域福祉の推進

(1) 小地域福祉活動事業

① 社協支部活動推進事業

地域福祉推進の中核となる社協支部の活動拠点整備、財源確保、組織強化、その他活動支援を行いました。

先進地研修をおし、まちづくり協議会における支部社協の立ち位置、先進的な取組に関して、今後の活動のヒントを得ることができました。また、地域でつながる視点を学ぶための講習会に関しては、総合福祉センター内で2回、6支部にて実施し、延べ155名の方々に受講いただきました。



・会議、研修会など

種別	回数	出席者数	内容
社協支部連絡協議会	6	102	役員改選、子育てサロンの現状、市内まちづくり協議会に関する協議、支部活動と関係機関との連携等
分野別研修	3	66	民児協との連携強化を図る研修、会計
先進地研修	1	13	まちづくり協議会に関する研修(下関市)
つながりワーカー養成講座	8	155	地域で孤立を防ぐ人材の養成

② 大島校区・別子校区地域福祉活動支援事業

高齢化率の高い、島しょ部・中山間地域に対する地域福祉活動への支援を行いました。

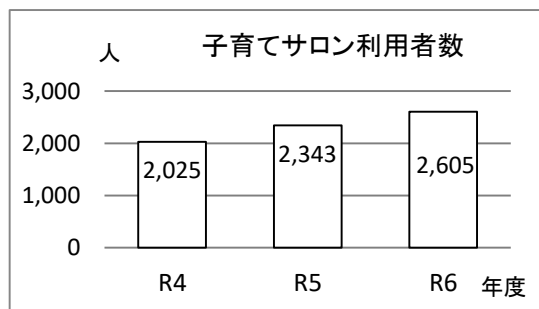
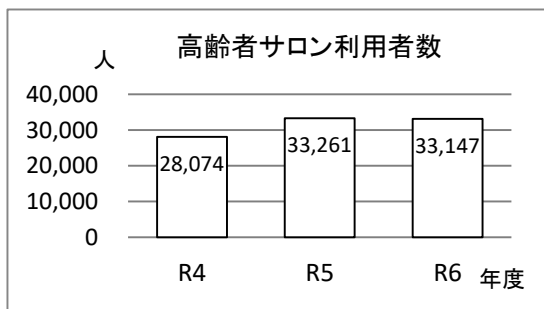
【大島校区】ベンチの贈呈式やとうどづくりなど、地域行事への参加をとおして、地域住民との信頼関係の構築が進みました。併せて社会資源の把握も進んでおり、社会資源を活用したニーズ解決を図りました。

【別子校区】関係人口創出事業は、十全看護専門学校と児童施設課との連携により実施しました。新規協働先として、東城看護専門学校と協議を行う準備をしました。

③ サロン支援事業

地域の高齢者・子育てサロンの内容の充実と普及を行いました。

P P K体操を主体としたサロンが増加しており、交流と運動をとおして健康づくりが促進されました。子育てサロンに関しても主任児童委員部会にて活動内容の協議を行いました。また、SNSによる連絡を活用し、それぞれ地域のニーズに応じた活動を進めました。



(2) 企画・広報事業

愛媛県社会福祉大会参加、新居浜市社会福祉大会・生き生きフェスティバルを企画、実施することにより、広く地域に福祉の啓発を行いました。

【福祉大会】市内で活躍されている32個人3団体を表彰しました。若い世代向けの記念講演を企画し、学校やPTAに呼びかけましたが、参加者の8割が60代以上でした。
【生きフェス】他イベントや学校行事と重なり、来場者数は1,800名と予想の半分程度でした。その結果を受け、次年度の開催日や内容の見直しを行いました。

種別	日程	参加者数	内容
第72回愛媛県社会福祉大会	10月8日	118名	表彰（県知事、県社協会会長ほか） 記念講演「ガンが教えてくれたこと ～自分に向き合って見つけた夢～」 シンガー 木山 裕策氏
第29回生き生きフェスティバル・ボランティアフェスティバル	10月4日 ～ 10月6日	約1,800名	健康相談、ボランティア体験、ボランティア発表会 障がい者施設等製作品販売、ウォークラリーほか
第43回新居浜市社会福祉大会	12月7日	約300名	表彰（市長、市社協会会長） 記念講演「1人じゃないよ ～家族の絆・地域の絆～」 シンガーソングライター 松本 隆博氏

(3) 共同募金運営事業

赤い羽根共同募金に関する募金活動、啓発活動、配分事業を行いました。

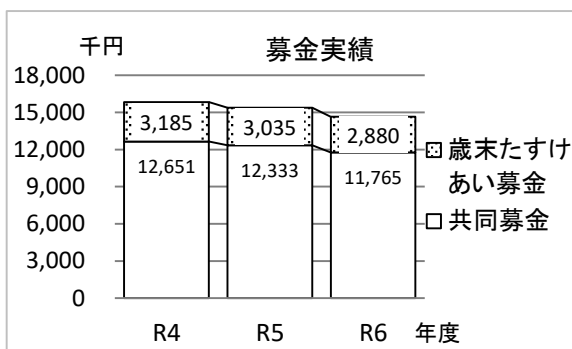
戸別募金は自治会長会に参加し、募金の趣旨や使い道について丁寧に説明を行いました。また、年末までに納入のない自治会について再度依頼を行いました。職域募金も継続的に依頼しましたが、目標額達成には至りませんでした。

・募金実績

募金種別	共同募金	歳末たすけあい募金
期間	10/1～3/31	12/1～12/31
目標金額	15,100,000	3,619,000
募金金額	11,765,407	2,880,293

・配分実績（新居浜市の地域配分）

募金種別	共同募金	歳末たすけあい募金
配分団体・事業数	21	18
配分金額	4,297,374	2,879,617



(4) 民生児童委員協議会連携推進事業

会議への参加・協力により連携を行うとともに、見守り推進員との連携を促進し、連絡調整を行いました。

理事会や必要に応じて校区の定例会に出席し、顔の見える関係構築を図りました。また、8月には独居高齢者見守り推進事業における支部・民協の連携強化を図るべくグループワーク形式の研修を実施し、継続的な実施を希望する声を伺うことができました。

(5) 福祉施設協議会運営事業

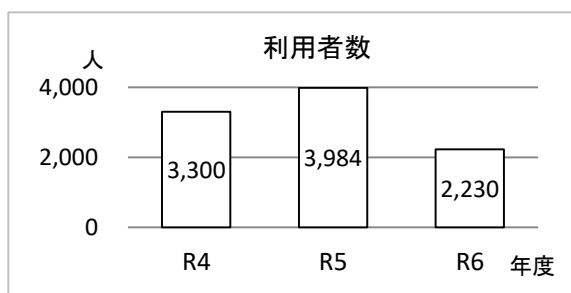
市内福祉施設の情報交換や相互連携の支援を行いました。

施設のニーズに応じて、定例会の他に市危機管理課と災害についての勉強会を開催し情報共有、意見交換を行いました。研修会は各施設で勤務する職員を対象に、「介護従事者のためのメンタルヘルス」「介護・福祉現場のカスタマーハラスメント」について開催しました。

(6) 地域福祉バス運行事業

高齢者福祉センター利用者の送迎を行うとともに、福祉団体の研修等で有効活用しました。

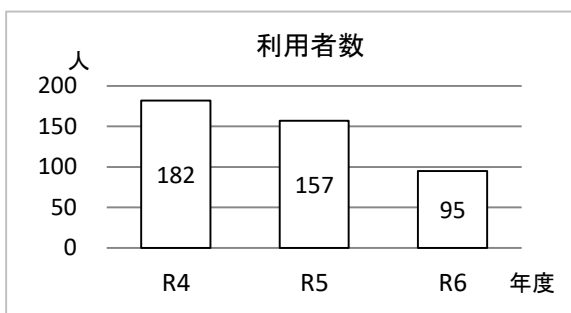
バスが1台老朽化のため廃車となりましたが、共同募金の配分金助成を受け、ワゴン車を購入しました。また、令和7年度から運行要綱を改正してワゴン車とともに運行する準備を整えました。



(7) 地域福祉バス運行事業（別子校区）

生き生きデイサービス及び分館の利活用日に送迎しました。また、地域住民の社会参加を促進する活動に利用しました。

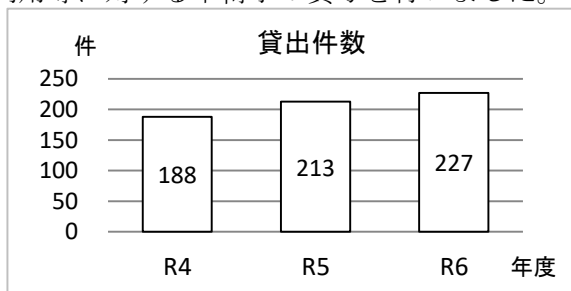
運転士の高齢化やなり手不足等に伴い、運転業務の委託方法等について、市担当課と協議をしました。



(8) 福祉用具貸与事業

施設入所者の一時帰宅や介護認定申請中の利用等に対する車椅子の貸与を行いました。

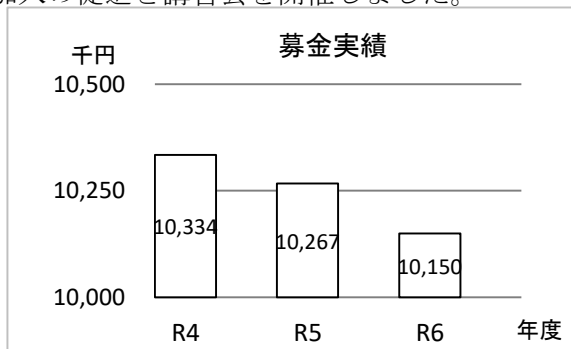
一般貸出用の車いすは定期的に整備し、安心して使用できるようにしました。各施設に常時貸し出ししている車椅子についても順次点検・整備を行いました。



(9) 日本赤十字社愛媛県支部新居浜市地区運営事業

赤十字活動の周知を行い、日本赤十字会員加入の促進と講習会を開催しました。

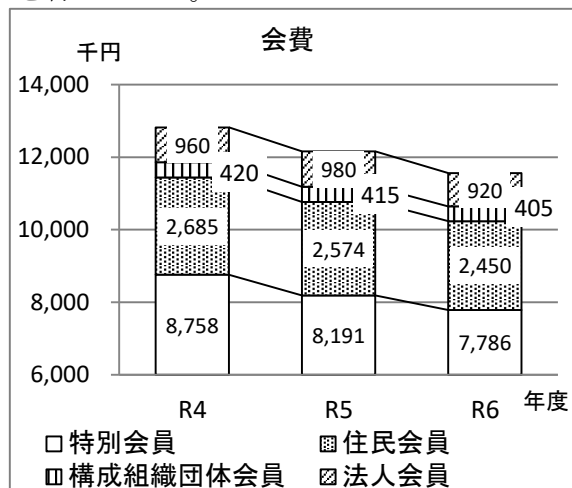
自治会等で説明する資料の内容を変更し、わかりやすく説明しました。法人会員へ送付するダイレクトメールに昨年度の取組状況をまとめた資料を同封し、広報を行いました。地域で活動している団体や施設利用者などに講習会を計6回実施しました。



(10) 会員制度啓発推進事業

社協会員の適正な管理運営と会員制度の啓発を行いました。

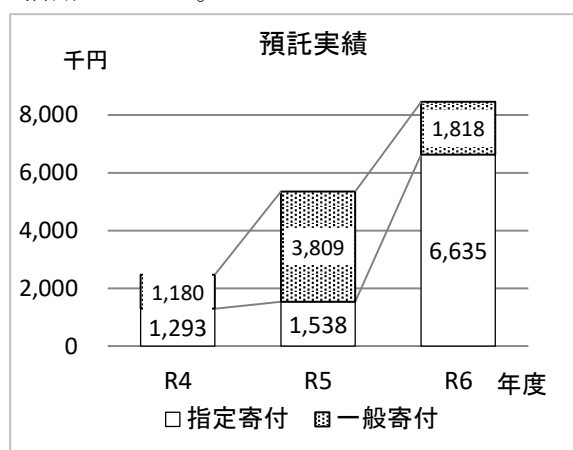
依頼状の内容を分かりやすくするため、社協支部ごとの活動写真や図を活用しました。また、協力者(お世話人等)に対し、会費の使途や必要性を明確に伝える広報を行いました。しかし、自治会加入率の低下に伴い、加入者は減少傾向にあります。



(11) まごころ銀行の運営

寄付を預託し、福祉サービス等の各種事業へ活用しました。

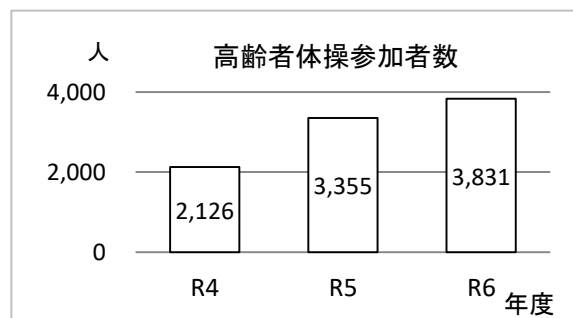
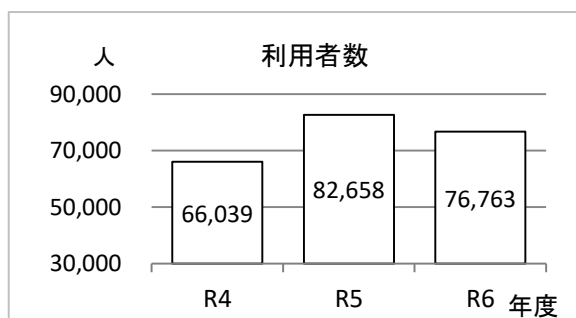
理事会・評議員会にてチラシ配布を実施しました。また遺贈寄付に関して広報しました。



(12) 総合福祉センター（本館）管理運営事業

安心安全な施設運営を行い、地域福祉の拠点施設として情報提供を総合的に実施しました。

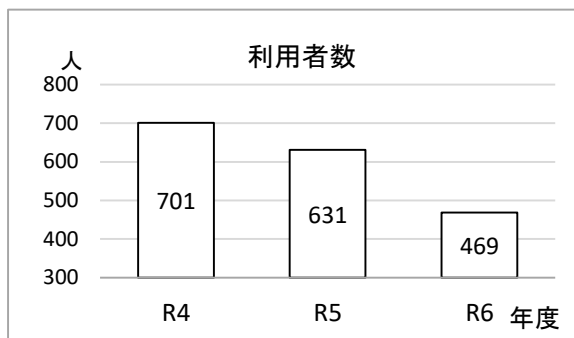
登録団体のデータを更新し、業務の効率化を行いました。
設備の維持管理を適正に行えるよう、管理業者との連携を密にし、協議・修繕を行いました。
また、大規模修繕（キュービクル更新）を実施しました。



(13) 総合福祉センター（別子山分館）管理運営事業

適切な管理運営を行い、住民主体の福祉活動拠点として、地域住民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図りました。

関係人口創出事業は、十全看護専門学校と本会児童施設課との連携により実施しました。施設のパフレットを当法人の理事会と評議員会で配布し説明等を行いました。別子校区に居住している住民が減少したことにより、コロナ禍以前まで利用者数を回復させることは難しい状況です。

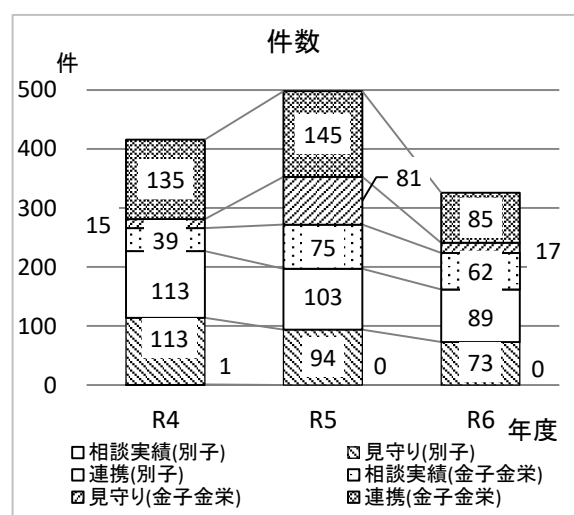


(14) 地域包括支援センター協力機関業務

高齢者の相談支援を実施しました。地域ケアネットワーク推進協議会（月1回）を開催しました。

【別子校区】関係機関等と「地域ケア会議」を2回実施しました。地域の高齢者の見守りや、相談対応を行いました。

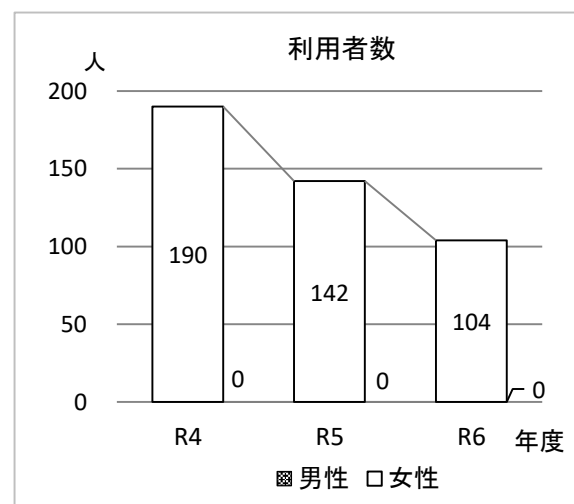
【金子・金栄校区】支部関係、地域包括支援センターの会議や各自治会のサロン等積極的に参加しました。また、民生児童委員、見守り推進員との連携を密に取ることで、個々に応じた対応を行うとともに適切なサービスにつなぎ、課題解決ができました。



(15) 生き生きデイサービス事業（別子校区）

別子校区の高齢者の自立生活の助長、社会的孤独の解消、心身機能の維持向上等を目的とした内容を実施（月2回）しました。

栗整形外科病院関係事業所とICTは使用せずに利用者同士が対面して交流を行いました。感染症対策を徹底して校区内外の様々な関係機関、団体との交流を行いました。



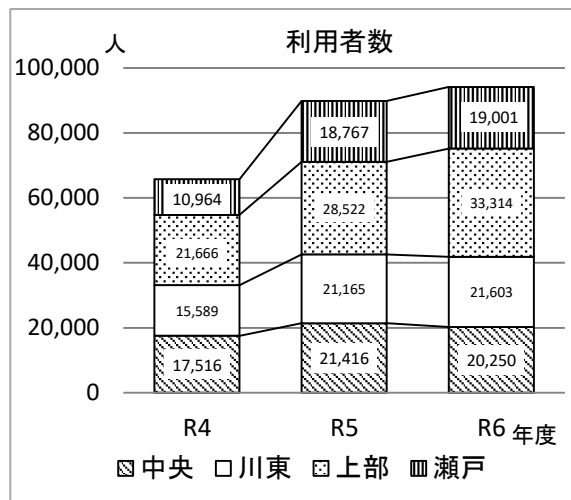
2 児童福祉の推進

(1) 児童館運営事業

①一般来館児童対象事業

一般来館児童の遊びの指導や援助をしました。季節行事、あそびの広場を開催しました。

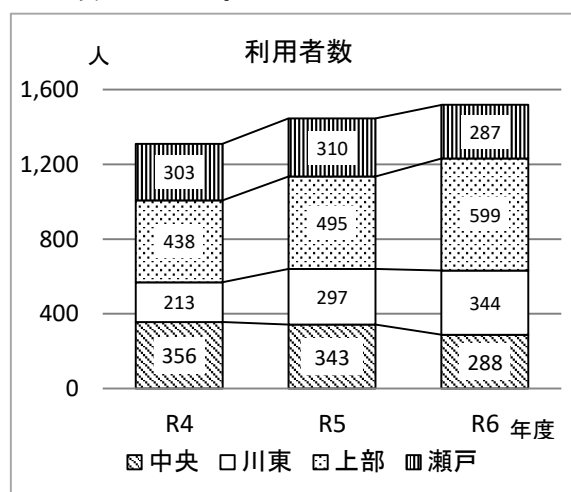
来館者とあいさつや会話から、実施して欲しいあそびの内容等を聞き取り、また遊びに行きたいと思える施設運営を行いました。
 行事等の案内を社協ホームページや各館公式LINEを活用して情報提供を行いました。
 中高生の協力を得て、学習支援や行事を行いました。
 再生可能な絵本やおもちゃの取替事業や、地域のダンボール回収に協力し、SDGsに心がけた活動を行いました。



・あそびの広場実施状況

一般来館児童を対象に週に一度、異年齢で集団遊びや制作等を行う「あそびの広場」を実施し、子ども達に連帯感や仲間意識を育てることに努めました。

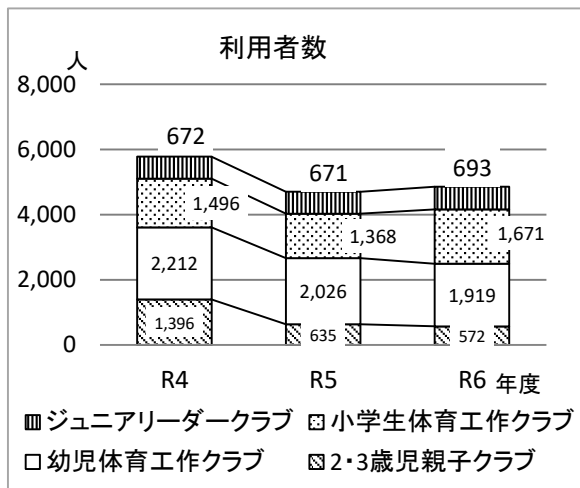
活動の予定を社協ホームページ、各館公式LINE、館だよりでお知らせをし、毎回楽しみにして参加してくれました。
 活動内容をリクエストしてくださる方もいて、毎回楽しい雰囲気で実施しました。



②クラブ活動

発達段階に応じた年齢別クラブを実施しました。

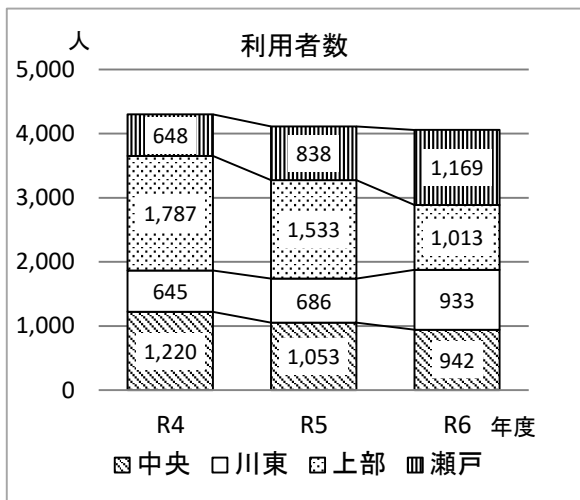
各クラブの参加人数を見てプログラムを変化させ、楽しく活動しました。また、モルックやボッチャ等を取り入れ参加者に好評でした。



③サークル活動

概ね2歳までの親子を対象に、遊びを通して親子の絆を深めるとともに母親同士の仲間づくり、情報提供等、子育ての支援を行いました。

母親同士が交流できる内容や親子で楽しめる活動を取り入れ好評でした。季節に合った制作やプレゼント作りを行い喜ばれました。



地域組織活動の育成、児童健全育成相談事業、子どもボランティア育成支援活動、豊かな文化の伝承や児童文化の提供を行いました。

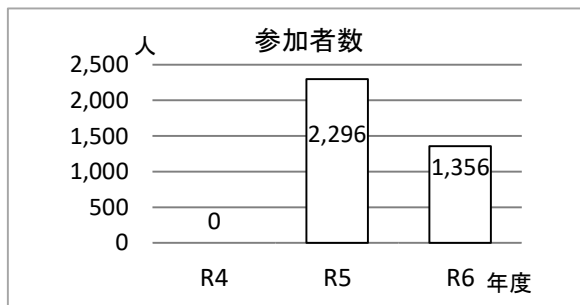
相談事業は日常会話から相談しやすい雰囲気で行い、内容によっては専門機関につなぎました。ボランティア育成活動として、ジュニアリーダークラブ員や市内中高生に行事等で協力を得ました。文化の伝承はけん玉、コマ、お手玉等の遊びを中心に楽しみ方を伝え、喜んでいただきました。

(2) 児童健全育成事業

①にいはまやんちゃKIDS

市内高校生と各種団体の協力もあり、参加者が楽しめるゲーム等を提供することができました。

今年度も商工会青年部と同日開催で実施しましたが、実施時間の短縮と雨天により参加者が減少しました。

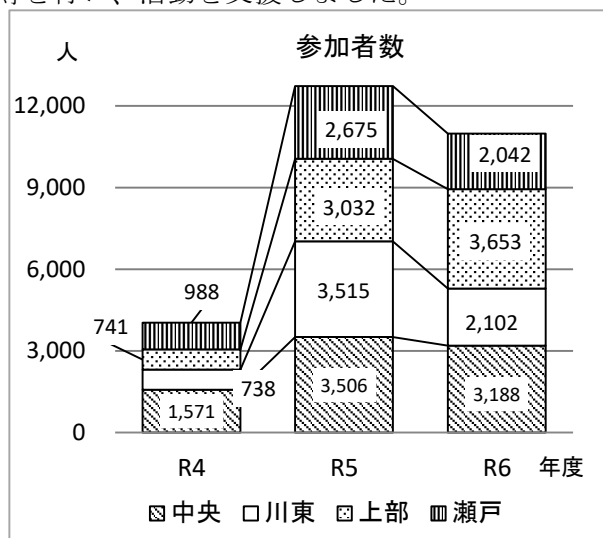


②出前児童館

団体の依頼により地域で遊びの提供や指導を行い、活動を支援しました。

川東、上部に併設している放課後児童クラブの定期的な出前児童館の利用があり、喜ばれました。

小学校より昔あそびの依頼もあり交流することができました。



③子育てサロンへの協力

地域の子育てサロンに協力して、情報を共有し、子育て家庭を支援しました。

支部子育てサロンに出向き遊びの提供ができました。また、指導だけでなく見守りを行いました。

④配慮が必要な児童への支援

発達や家庭環境に配慮が必要な児童に、関係機関と協力して継続的に支援しました。

子ども同士が自然体で遊べるよう仲介に入り、和やかな雰囲気づくりができました。気になる子どもには、はげみ園に相談し、連携を図りました。また、放課後等デイサービス施設などの子ども達の利用もありました。

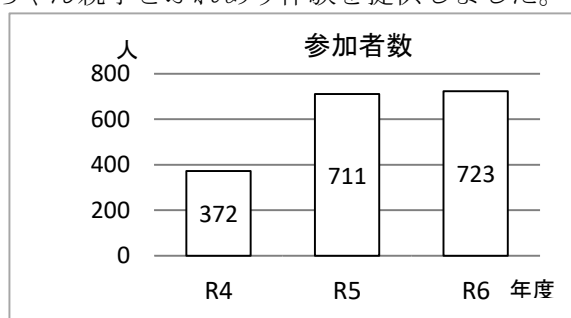
虐待等の発見はありませんでしたが、不登校児童の支援を行いました。

⑤いのちの授業

地域関係者の協力により、中学3年生が赤ちゃん親子とふれあう体験を提供しました。

中学校5校で実施することができました。

母子の参加を地域拠点施設にもお願いしました。



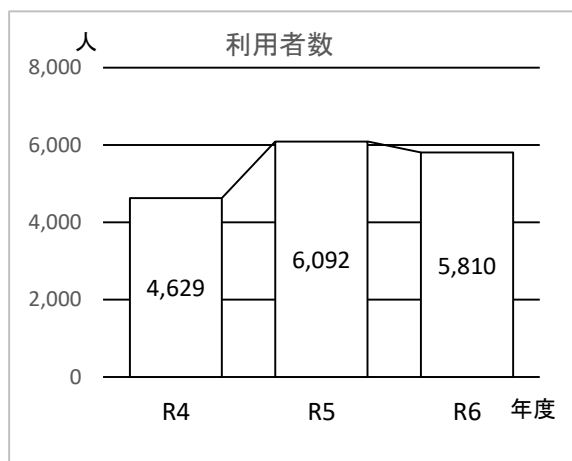
3 障がい者福祉の推進

(1) 障がい者福祉センター運営事業

障がい者に日常の場を提供し、教養の向上、社会参加、レクリエーションを供与し、福祉の増進を図りました。

心身障害者(児)団体連合会や関係団体の定例会に毎月参加し、必要な支援を行いました。また、ホームページにパンフレットを掲載し継続して会員募集を行いました。地域と連携した事業を実施するため事業内容の見直しを行いました。福祉避難所開設訓練では、関係機関や当事者団体と連携を図り、手順確認やニーズ把握を行い職員のスキルアップを図りました。

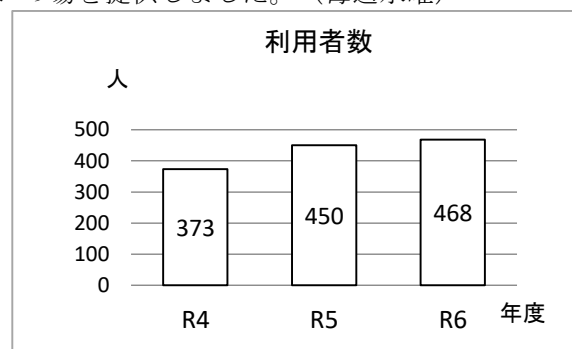
内容	回数	人数
つまみ細工体験教室	12	95



(2) 障がい者サロン事業

仲間作りや情報共有などのコミュニケーションの場を提供しました。(毎週水曜)

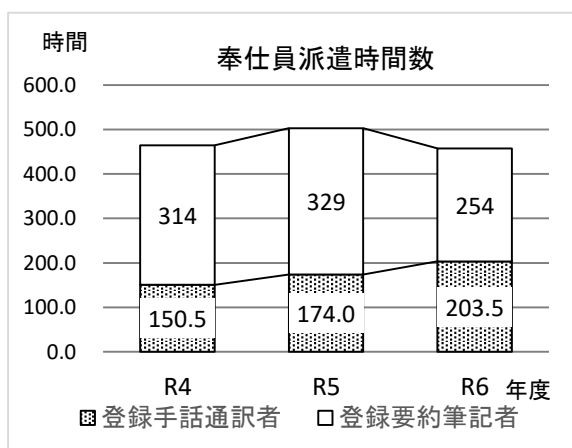
ボランティアや社協支部と連携し、サロンに携わる人を増やし、当事者主体のサロンづくりができました。活動内容をホームページに掲載し事業の周知を図りました。



(3) 障がい者在宅福祉対策事業

意思疎通支援事業、生活訓練事業、身体障がい者スポーツ教室等開催事業・大会開催事業、リフト付き福祉バス運行事業を実施しました。

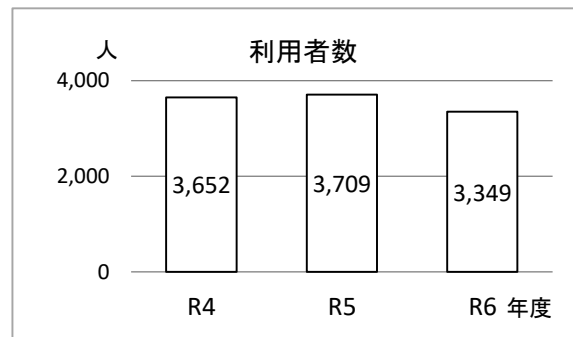
各事業の実施については計画的に情報発信を行い、新規参加者を増やすことができました。また、利用者の意見を聞きながら事業内容の見直しを定期的に行いました。



内容	回数	人数	内容
生活訓練事業	22	301	料理教室、生け花教室、わくわく教室、ひまわり学級（文芸教室、防災教室）
身体障がい者スポーツ教室等開催事業	23	407	レクリエーション教室、水泳教室、軽体操教室、バドミントン教室
身体障がい者スポーツ大会開催事業	2	44	ボッチャ大会、バドミントン大会

リフト付き福祉バス運行事業

各種の行事等に参加する機会を提供することを通して、社会参加の促進を図りました。

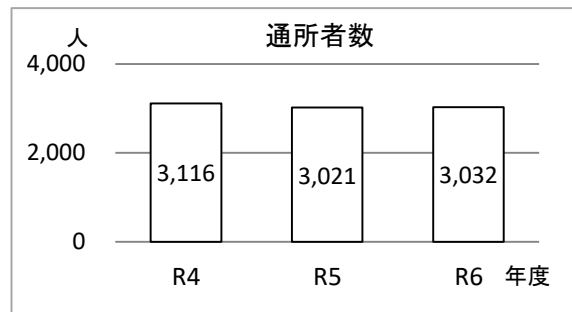


(4) 地域活動支援センターⅢ型「いぶき」運営事業

通所により自立更生に必要な訓練及び、職業的な作業等による自主製品作り、企業の受託や行事を通して、社会参加を促進しました。

新規作成したチラシの活用や活動内容を月1回以上ホームページに掲載したことにより、体験・見学者2名を受入れることができました。

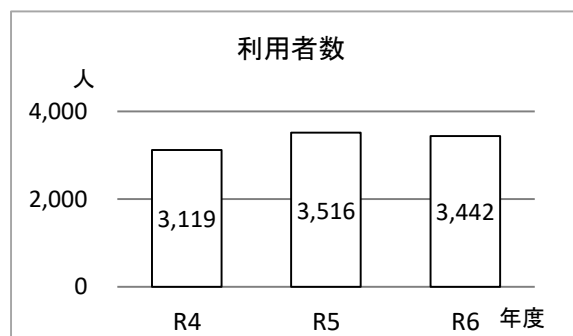
サービスの質の向上のため、自閉症に関する研修に職員が参加し、支援技術の向上に活かすことができました。



(5) 生活介護事業

障がい者の身体状況や環境に応じて、自立促進、生活の質の向上を図るため、日常生活上の介護や訓練及び創作活動を実施しました。

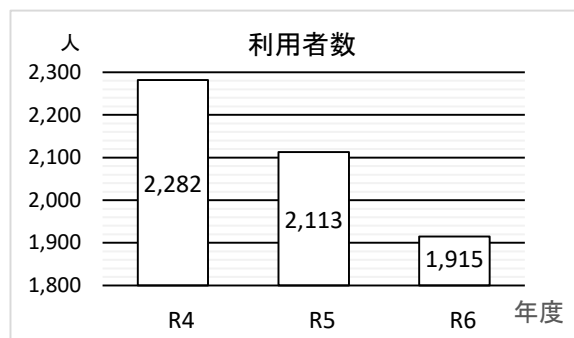
全職員が専門分野の研修に参加し、サービスの質を向上させることができました。また、職員の意見を聞き入れながら働きやすい環境づくりに取り組みました。その他、災害対策として避難の流れについて確認しました。



(6) 児童発達支援事業はげみ園

未就学の障がい児に対し、早期から特性に合わせた専門療育を実施しました。

5領域(「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」)を含めた総合的な個別支援計画書を作成したことで、支援の質の向上につながりました。また、療育内容と5領域とのつながりを明確にし、療育の見通しが持てるよう支援プログラムを公表しました。



(7) 障がい者居宅介護等事業

居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護を実施しました。

①居宅介護

障がいがある方に対して身体状況等に応じた利用者本位の計画を作成し、身体介護、家事援助等生活全般にわたる援助を行い、地域生活を支援しました。

②重度訪問介護

重度の障がいがあり常時介護を要する方に対して、利用者本位の計画を作成し、介護、家事等の生活全般にわたる援助や外出時における移動中の介護を行い、在宅生活を支援する事業ですが、利用はありませんでした。

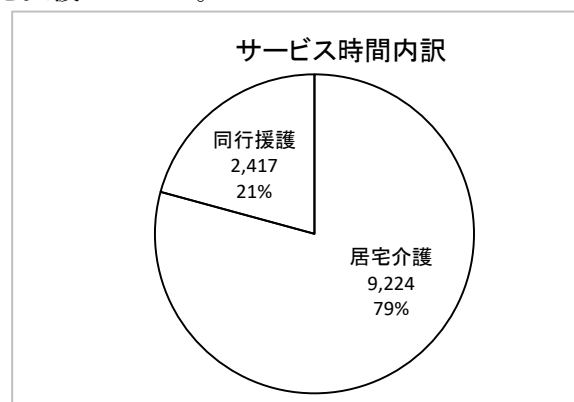
③行動援護

障がいがあることで行動に困難を有する方に対して、利用者本位の計画を作成し、行動する際に生じる危険を回避するための援護等を行い、社会参加と地域生活を支援しました。

④同行援護

視覚障がいのため移動が困難な方に対して、利用者本位の計画を作成し、外出時に同行して移動の援護等を行い、社会参加と地域生活を支援しました。

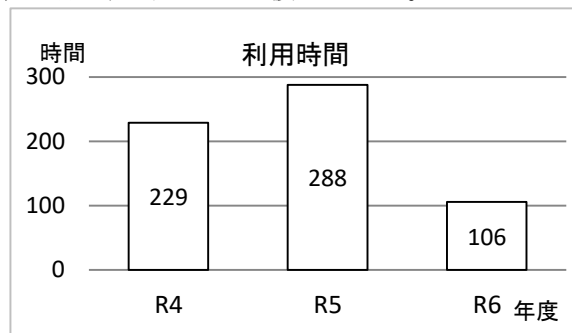
職員の知識・技術の向上を図るための研修を行い、利用者の希望する在宅生活を支えることができました。
また、ICT化については、介護記録ソフトを導入し、介護日誌をデータ入力することで、業務効率化及びペーパーレス化を図り、より適切な介護サービスを実施する体制を構築することができました。



(8) 障がい者等移動支援事業

屋外の移動困難な障がい者に外出援助し、地域生活と社会参加を支援しました。

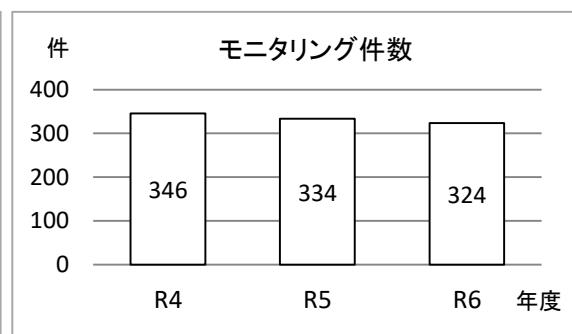
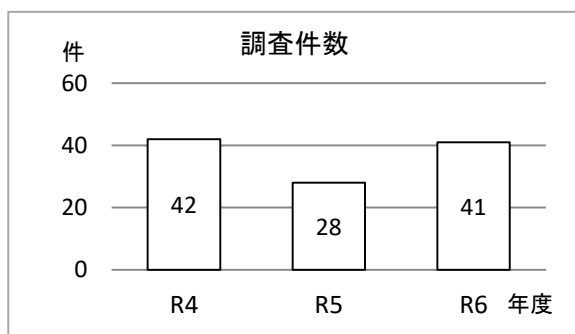
家族以外の人と外出することにより、社会のルールを学ぶ場を提供できました。利用者自身で考えてもらうことで意欲促進ができ、安心安全な支援を行うことができました。



(9) 相談支援事業

障がい者の自立に向けて課題の解決や適切なサービス利用に向けて相談支援を実施しました。

自立支援協議会相談支援部会に参加し、長期休暇中の入浴課題解決に向けて、訪問入浴対象者の見直しを行いました。研修については、加算につながる「精神障がい者支援研修」や認定調査研修等を受講して相談員としての資質向上を図りました。また、新規契約相談を積極的に行い、目標の事業収入を達成しました。

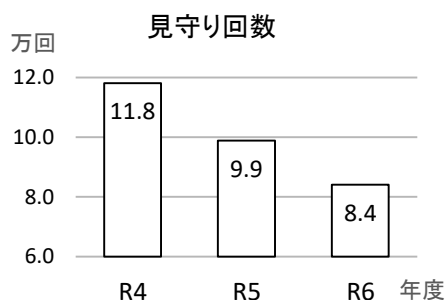


4 高齢者福祉の推進

(1) 独居高齢者見守り推進事業

在宅独居高齢者が安心して生活ができるよう、地域関係者の参加・協力で、見守り推進員による安否確認を実施しました。

見守り推進員の事業の周知啓発、担い手発掘のための見守り推進員養成講座を開催しました。また、地域に出向き見守り推進員と民生委員と連携を図り、地域の独居高齢者が抱える問題の解決を行いました。



見守り推進員	見守り対象者
263	1,699

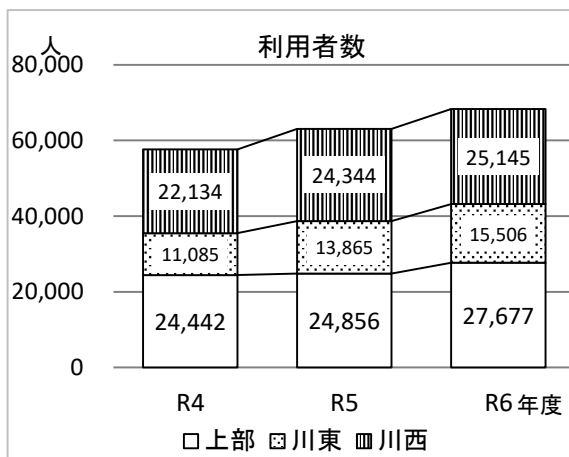
令和7年3月31日現在

(2) 高齢者福祉センター運営事業

① 高齢者福祉センターの管理運営

健康長寿のまちづくりを実現するため、生きがい創出、健康づくり、生活支援を行う拠点として、高齢者福祉の増進を図りました。

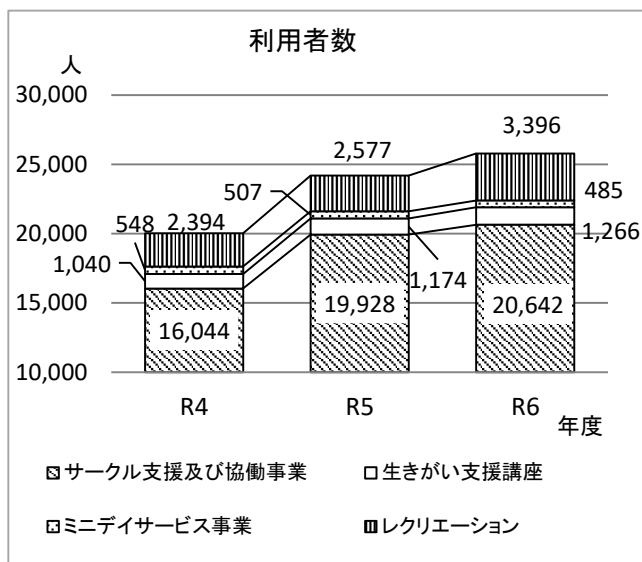
生き生きサロンや見守り連絡会議、防災会議など地域の関係団体との連携や会議の際には、センターだよりを用いてPRを行いました。また、今年度から各センターの所在校区の自治会に、毎月センターだよりの回覧を依頼し、センターのPRと利用者の増加につなげました。



②生きがい創出事業

サークル支援、講座により、仲間づくり・趣味づくり・社会参加をとおして、豊かな生活を送れるよう活力を創出しました。

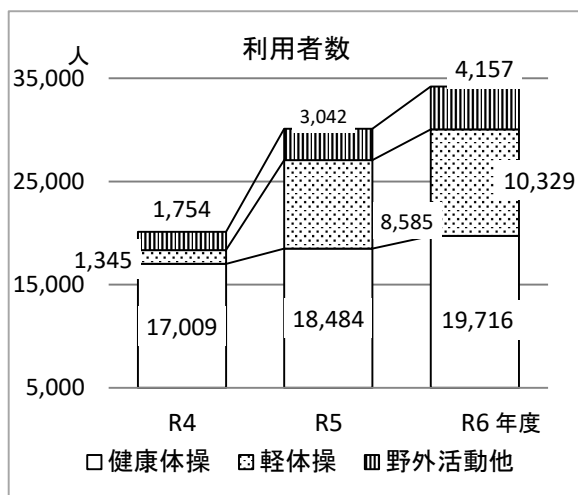
高齢者が関心を持って参加でき、安心・安全な生活につながる様々な講座や教室、レクリエーションを提供し、利用者の生きがいづくりを支援しました。また、地域の生き生きサロン等からも毎年楽しみに招いてもらっており、8か所で工作教室などを行い、高齢者の福祉を増進させました。



③健康づくり事業

体操や健康教室の知識供与、相談・保健指導等で、健康維持・体力増進を図り、日常生活を送れるよう安全・安心を創出しました。

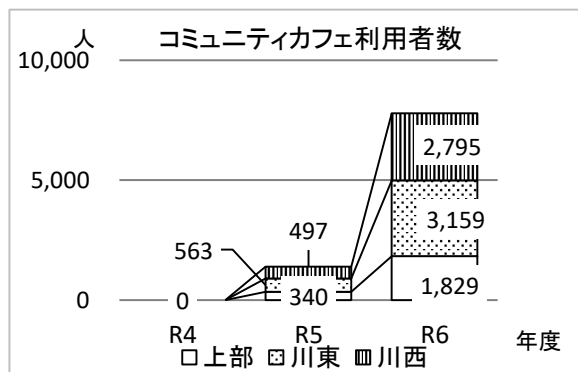
毎朝の健康体操では、利用者が楽しく健康づくりが行えるよう、ストレッチやリズム体操、ラバーバンドなど豊富なメニューを提供しました。また、健康教室等を開催し、利用者の健康保持を行うとともに、介護予防、生活習慣病予防や認知症について等の普及啓発を行いました。



④生活支援事業

生活相談・指導で生活課題の早期発見と予防で、生活の安定を図り、関係機関と連携して生きる力を創出しました。

コミュニティカフェの開催により、地域の高齢者がセンターを利用するきっかけとなり、利用者同士が楽しく交流できました。また、利用者と職員とのコミュニケーションが増えたことで、利用者の変化への気づきや相談支援が強化したことで安心や幸福の向上につながることができました。

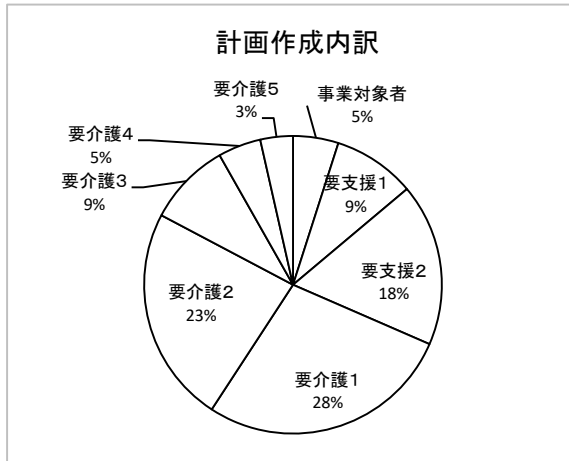
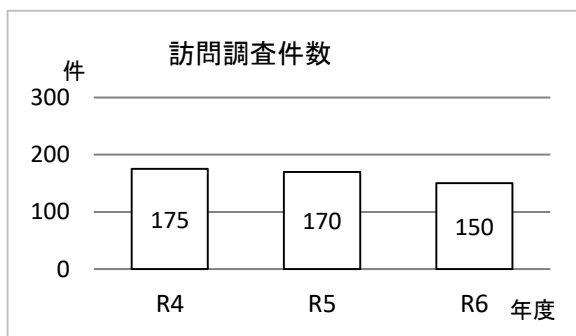
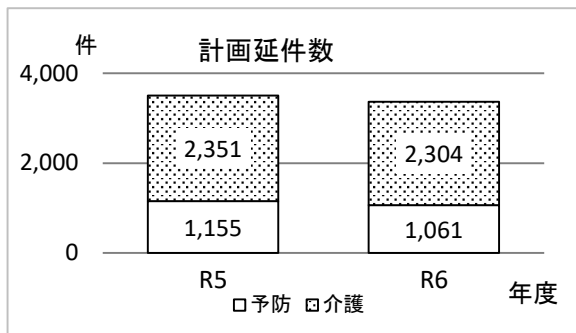


(3) 居宅介護支援事業

アセスメントを行い、利用者本位の計画を作成し、計画に沿ったサービスを提供しました。

介護予防支援事業者の指定を受け、新規利用者を積極的に受入れすることができました。利用者に寄り添った支援を行うため、毎週ケース検討会を開き事業所で利用者の情報共有をし、事業所全体でケアマネジメントスキルが向上しました。

ICT化については、アプリの使用やメール操作を習得することによってスキルアップできました。

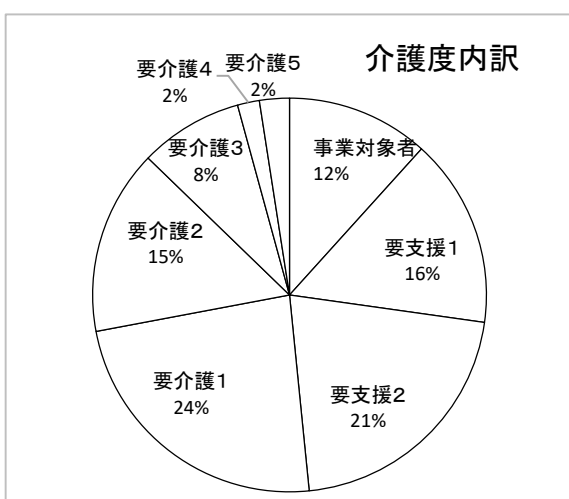
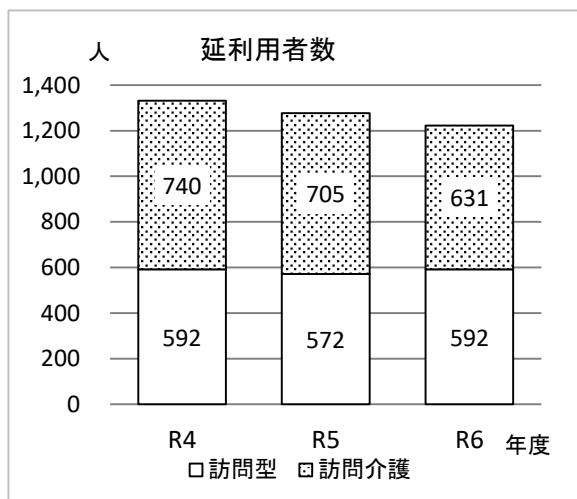


(4) 訪問介護事業

利用者のニーズに沿った訪問介護計画を作成し、居宅においてサービスを提供しました。

訪問介護事業所全体で、調理実習を行い、同じ食材でも色々なメニューができることに気付くことで、利用者への食事提供のバリエーションが広がりました。また、調理の時短方法など、大勢でコミュニケーションを取る中で情報共有することができました。

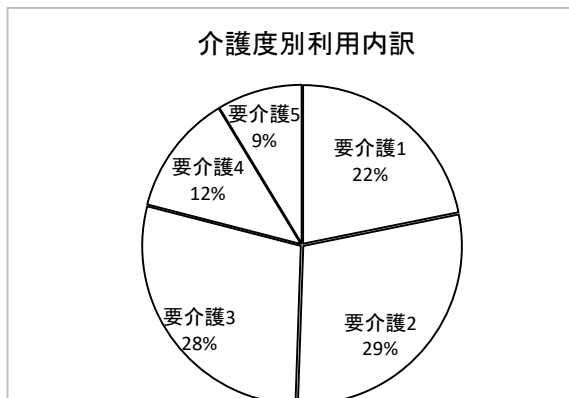
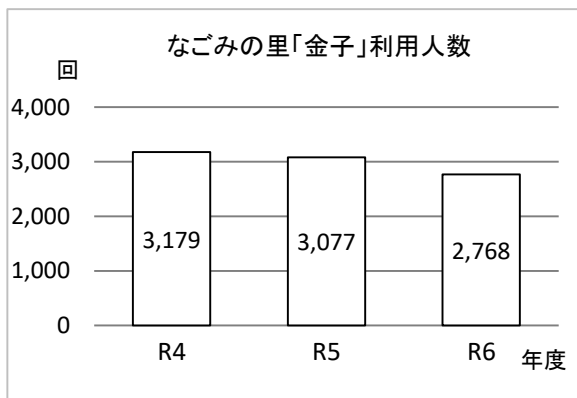
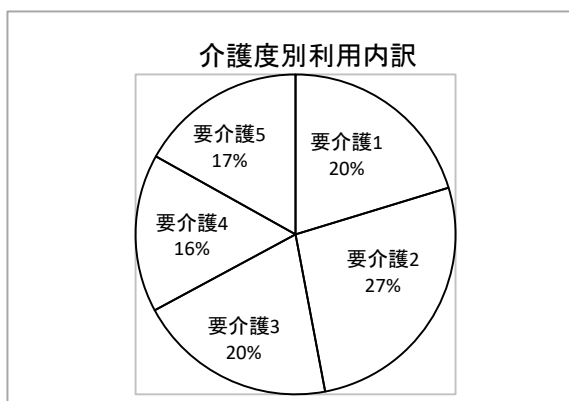
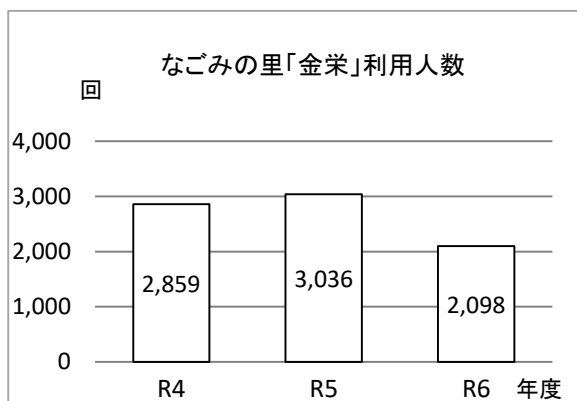
多様化するサービスに在宅サポートを利用し、対応することができました。



(5) 認知症対応型通所介護事業

認知症の方が可能な限り居宅での日常生活が送れるよう、入浴、食事介護や機能訓練を実施し、家族の身体的負担を軽減しました。

職員研修によりスキルアップし、自分で考え行動できる職員となり、サービスの質が向上しました。施設の状況を情報発信したり、地域行事へ参加なども行いましたが、在宅生活が限界に近い利用者が多くおり、入所、入院、死亡が相次ぎ急激に利用が減り、経営状況が悪化しました。



(6) 訪問介護事業所職員連絡会運営事業

新居浜市と連携し、市政だよりにて年3回ホームヘルパー特集を掲載し、ホームヘルパーのやりがいについてのアピールをしました。しかし、雇用につながるケースはありませんでした。

また、法定研修を中心に研修を行い、多数の事業者が参加し、スキルアップ及び連絡会の情報共有ができました。

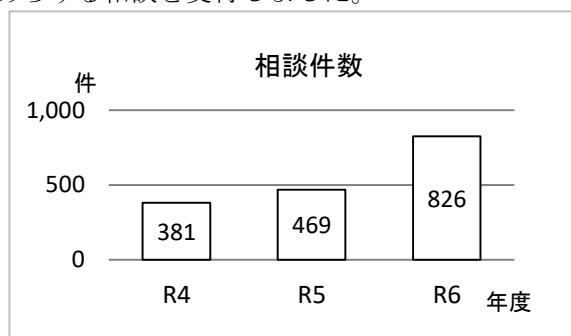
回数	参加人数	研修内容
5	342	介護記録の書き方、カスタマーハラスメント対策、認知症研修、ストレス対策等

5 権利擁護の推進

(1) 暮らしの総合相談・支援事業

専門機関や相談支援員が中心となり、日常のあらゆる相談を受付しました。

相談内容に応じて幅広い分野の関係機関と連携を図りながら、複合的で困難な課題を抱えた相談者に対して適切な支援を実施しました。専門相談の広報を行い、相談者数が増加しました。

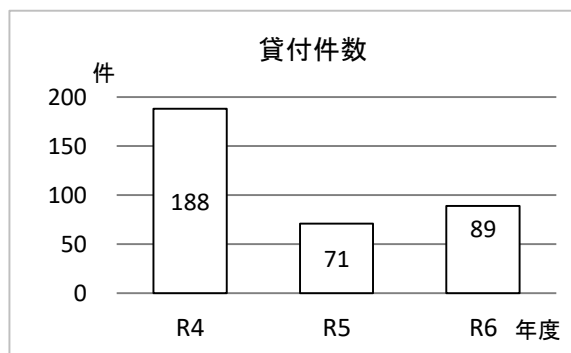


相談内容	相談員	相談日	開設日	件数
一般相談	自立相談支援員	毎日	243	784
登記、遺言、土地家屋調査相談	公証人、司法書士、土地家屋調査士	毎月1回	12	31
社会保険相談	社会保険労務士	毎月1回	12	6
精神障がい者家族相談	新居浜家族会会員	毎月1回	12	5
		合計	279	826

(2) 生活福祉資金貸付事業

低所得者や高齢者、障がい者の生活を経済的に支え、在宅福祉及び社会参加促進を図り、生活改善を支援しました。

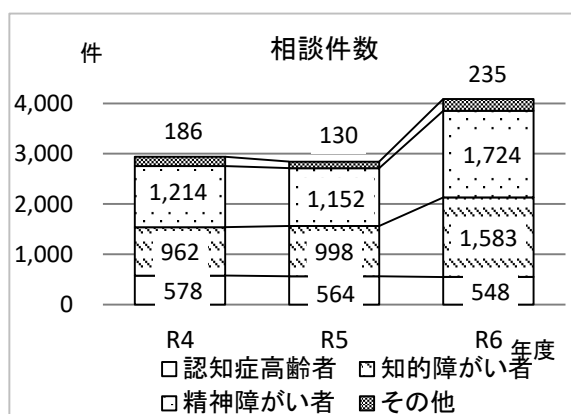
適切にアセスメントを行うことで、相談者が抱える課題の把握及び効果的な貸付や家計改善支援を実施することができました。また、償還滞納者に対して、生活状況の確認をするとともに償還計画の見直しや償還猶予申請を行い、自立した生活が行えるようにフォローアップを行いました。



(3) 福祉サービス利用援助事業

判断能力が不十分な方が在宅で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助や金銭管理等を実施しました。

利用者への定期的なモニタリングの実施や生活支援員との細かな情報共有を行うことにより、利用者が地域で安心した生活ができるよう支援を実施しました。多くのニーズを要するなかで、緊急度に応じて契約を行いました。新規契約2件、終了2件、合計46名の利用者の日常生活の自立支援を行いました。



(4) 法人後見事業

被後見人等身上監護、財産管理を適正に行い、相続関係、施設入所、福祉サービス利用契約の手続きを実施しました。

毎月弁護士との相談会を実施し、専門職とのつながりを作ることにより、困難ケースでも迅速に対応できる体制を作りました。また、中核機関の会合にも積極的に参加し、必要な人が制度を利用できるネットワークづくりに参画しました。法人後見事業においては、後見1名が死亡により終了し、新規受任後見1名が開始となり合計11名の身上監護と財産管理を行いました。

・受任状況（令和7年3月31日現在）

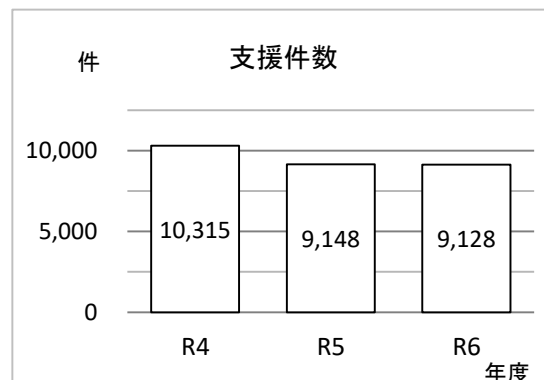
区分	認知症 高齢者	知的障 がい者	精神障 がい者	合計
受任者数	4	5	2	11

区分	後見	保佐	補助	合計
受任者数	7	4	0	11

(5) 生活困窮者自立支援事業

経済的困窮や社会的孤立など複合的な生活困難を抱える人々に、寄り添い型支援を実施しました。

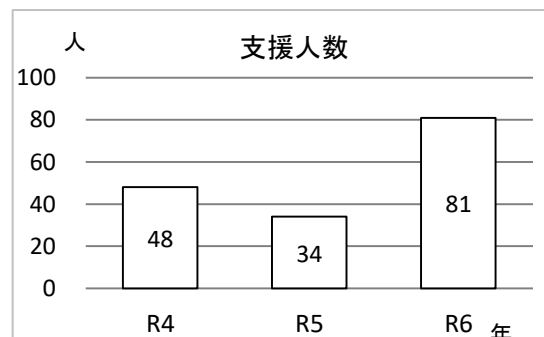
複合的な生活課題を抱える相談者に対して、適切なアセスメントを行い、利用者の想いを大切にしながら伴走支援を実施しました。食を通じたアウトリーチも実施し、コロナ禍から継続して生活困窮している世帯に対しても支援を行いました。困難事例に関しては、課全体で事例検討を実施し、課題解決に向けてチーム支援を行いました。



(6) 緊急食料等支援事業

緊急的かつ一時的に生活に困窮し、最低限度の生活を維持できなくなる世帯に相談支援、食料や日用品等を支給しました。

食料提供事業者や協力者の拡充が図れたことや赤い羽根共同募金助成事業の活用により、対象者に必要な現物を柔軟かつ迅速に支給することができました。社協内にもフードドライブの受取箱を設置しました。



(7) 新居浜を明るくする運動推進事業

犯罪や非行のない安全・安心な地域社会づくりを目的として、保護司会、更生保護女性会等関係機関と連携しました。

保護司会、更生保護女性会をはじめ、推進団体に加入している関係機関と連携を取りながら運動を展開しました。支出項目を見直し、経費削減を図り、適切な事業運営が達成できました。

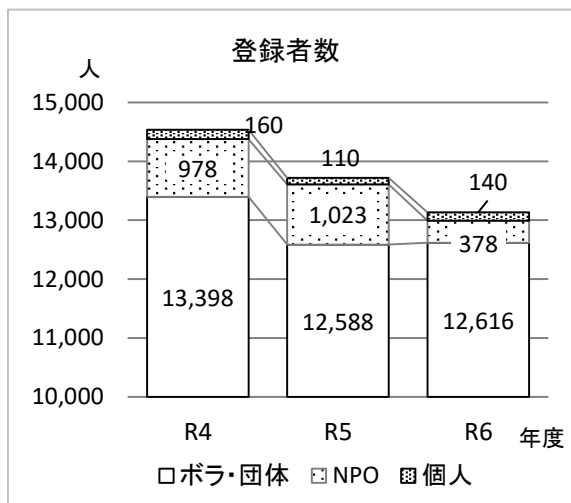
6 ボランティア活動の推進

(1) 福祉ボランティア推進事業

① ボランティア・市民活動センター運営事業

団体及び個人登録し、市民を様々な活動へとつなげ、総合的なボランティア・市民活動推進の場としての役割を担いました。

公式LINEのつながりを増やし、週1回の頻度でボランティア募集やイベント情報を発信することで、活動の活性化につながりました。福祉施設からの紹介依頼も増加しました。また、在宅でできるボランティアを募集し、個人の活動を促しました。

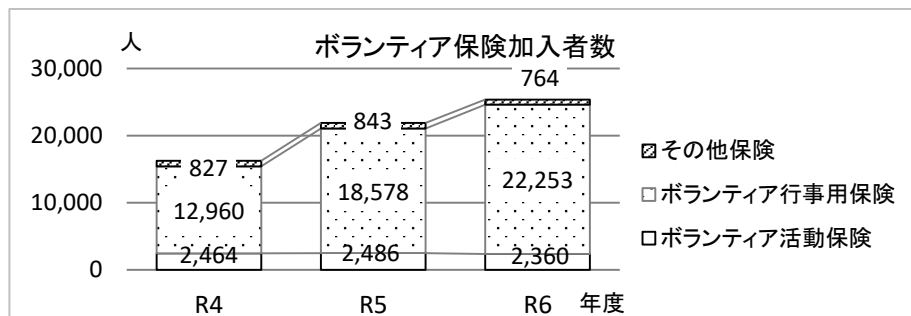
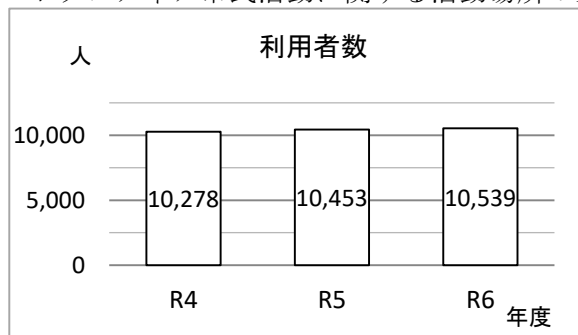


② ボランティア・市民活動に関する相談、援助、指導

ボランティア・市民活動に関する相談に対応し、中間支援を実施しました。

中間支援プロジェクト委員会や各種会議などに参加し、資質向上や情報取得を図りました。社協のための「広報のチカラ」研修（全8回）にも参加し、社協職員としての知識向上にもつながりました。

- ・ 来所、電話、メール等による相談、援助、指導
実績件数 1,242 件
- ・ ボランティア市民活動に関する活動場所の提供



③ボランティア・市民活動に関する情報提供

市民の自発的な社会参加を促し、個人及び団体の活動が活発になるように必要な情報を収集、提供しました。

公式LINEでは、端末機器からすぐに参加申込につながる情報発信を行いました。
館内では掲示の見直しを行い、活動分野ごとの情報に整理しました。

④ボランティア・市民活動に関する研修

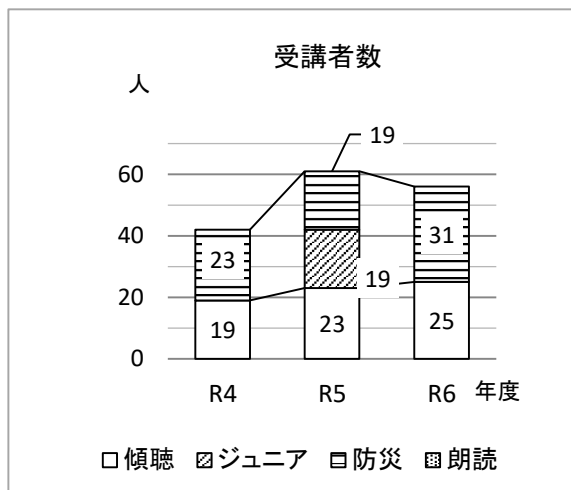
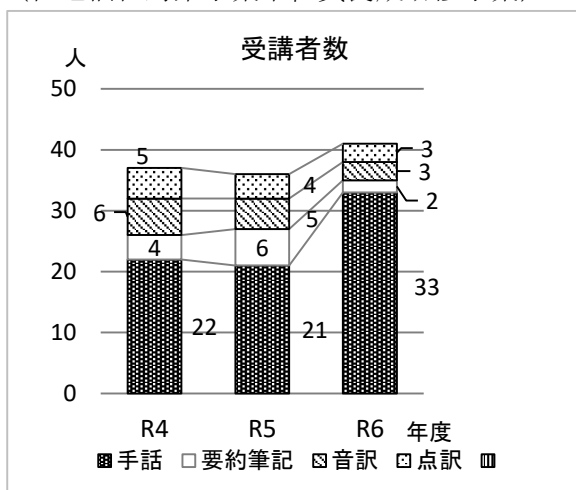
技術ボランティア養成講座、各種講座を実施しました。

災害ボランティア養成講座を入門講座とすることで、子どもの参加はありませんでしたが、30人以上の参加をいただき、災害ボランティア登録につながりました。

また、在宅でできるボランティアとして、高齢者施設の誕生日カードの作成を依頼し、どなたでもできる活動を促進しました。

・技術ボランティア養成講座
(在宅福祉対策事業奉仕員養成研修事業)

・ボランティア講座



⑤その他

ボランティア・市民活動に関する福祉活動資材の整備、貸与、連絡調整を行いました。

ロッカー内の整理・整頓を行い、活動資材の保管希望にも対応しました。

貸出用の福祉教育資材は、子ども用サイズや視覚体験ゴーグルなどを新規購入し、より使いやすいものを提供しました。

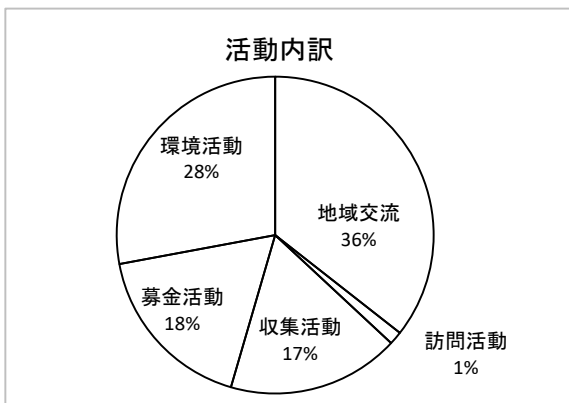
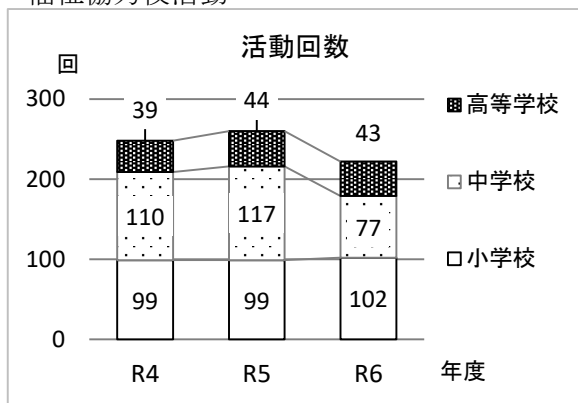
(2) 福祉教育、生涯福祉学習

福祉学習の推進及び生涯福祉学習を支援しました。

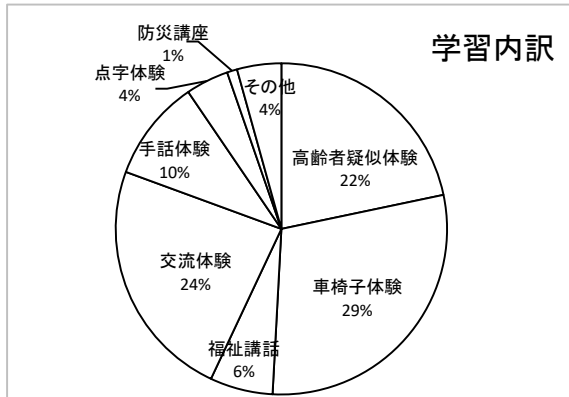
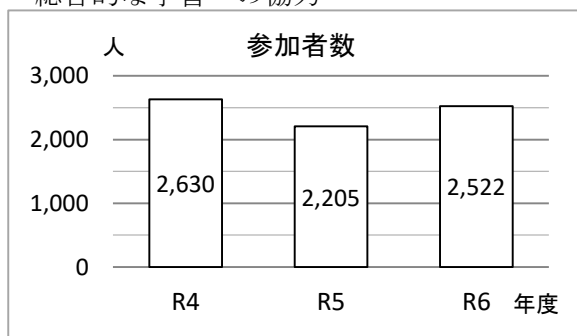
中学・高校生を対象に、夏のボランティア体験を初めて実施し、延べ216人が高齢者・障がい者・児童施設などで活動しました。受入先の活性化にもつながりました。

福祉教育では、講話や体験で理解を深めながら、福祉施設や学校での交流学习を行いました。福祉の作品募集では、募金箱デザイン画を募集し、共同募金への理解を促しました。

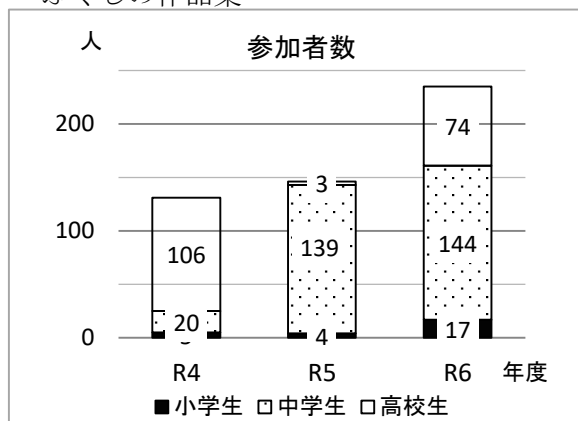
福祉協力校活動



・総合的な学習への協力



・ふくしの作品集



・夏のボランティア体験

ワークキャンプ事業（福祉施設での宿泊型体験学習）の継続がコロナ以降困難となったが、学生の福祉への興味を活動につなげるため、夏休み期間にボランティア活動を体験する「夏のボランティア体験」を実施しました。

対象	市内中学生・高校生	
体験先	30か所 福祉施設・ボランティア団体など	
参加者	人数	117
	延べ人数	216

(3) 災害ボランティアセンター設置運営事業

資材管理や災害ボランティアの受付相談、登録、管理を行い、講座を開催。ネットワークを構築し、訓練を実施しました。

「地域支え合い・災害支援ネットワーク新居浜」構築のための検討会を実施し、次年度以降の会議及び研修訓練の実施に向け、準備を進めました。また東予会議へ参加し、新居浜市社協の取組について説明しました。

災害ボランティア登録者（令和7年3月31日現在）個人:52人、団体:6団体

7 社会福祉協議会の運営の強化

(1) 理事会・評議員会の運営

地域福祉を推進する団体としての経営責任を担う理事会、議決機関としての評議員会を開催しました。

理事会を障がい者福祉センターで、施設見学を含めて実施し、評議員会では能登半島災害支援報告、別子校区の紹介を行いました。また、評議員の定数の見直しを行いました。

種別	回数	延出席者	内容
理事会	5	65	43議案（内1回書面決議）
評議員会	5	143	14議案（内1回書面決議）
監事監査	1	3	令和5年度事業及び決算について

(2) 財務運営、管理

財源（民間財源、公費財源、事業収入財源）を確保し、継続・安定的な経営、会計法令に基づく経理事務を実施しました。

研修や協議により、財政・経営状況に関して、一定の理解や意識向上につながりました。具体的な業務改善に向けて取り組みました。

(3) 人事管理・人財育成

採用・配置、評価、処遇、育成からなる人事管理制度の一体的運営を行いました。

研修等を実施するとともに、人事評価シートの指導力項目の評価向上への研鑽について奮起を促しました。

(4) 労務管理

働きやすい環境の整備と労働法制を順守し、衛生委員会、健康診断を実施しました。

健康意識向上に向け、衛生委員会や5S活動と協働しながら職場巡視や職場環境改善方法について検討しました。また、管理職対象にメンタルヘルス研修を実施しました。給与明細や年末調整関係事務を電子化しました。

(5) 社協発展・強化、その他計画の策定と進行管理

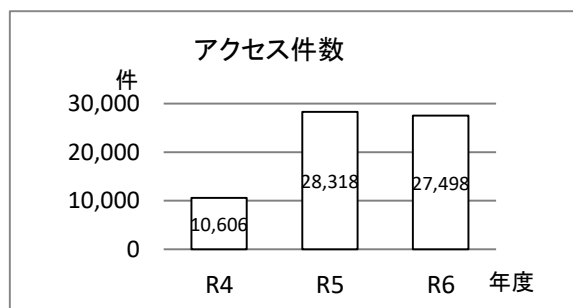
制度、地域生活課題などの外部環境、組織体制、事業推進体制、財務状況などの内部環境をもとに策定し、進行管理を行いました。

法人の基本理念を策定し、職員の意識向上を図りました。第5次地域福祉活動計画の策定に向けて準備を行いました。

(6) 広報活動・広報戦略

社協だより・ホームページにより地域福祉活動を広報しました。

社協だよりのデザインを、見やすく、伝わりやすいように変更しました。
また、ホームページでは、オンラインでの職員採用申込方法を取り入れました。



「にいほま社協だより」を年4回
(1回あたり約39,500部)発行

ホームページ運営<http://www.n-syakyo.jp/>
※4年度はリニューアル(9月1日)後のアクセス数